**平成 25 年度図書館情報メディア系プロジェクト研究　研究成果報告書**

| 種　　目 | 外部資金獲得支援・萌芽的研究支援 | 研究代表者<br>氏　　名 | 鈴木　佳苗 |
|---|---|---|---|
| 研究課題 | 子どもがよく読む本の定量的分析のための指標の作成に関する研究 | | |

研究組織（研究代表者及び研究分担者）

| 氏　　名 | 所属研究機関・部局・職 | 現在の専門 | 役割分担 |
|---|---|---|---|
| 鈴木佳苗 | 筑波大学・図書館情報メディア系・准教授 | 社会心理学<br>発達心理学<br>社会情報学 | 研究統括 |

研究目的

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであるとされ（2001 年「子どもの読書活動の推進に関する法律」）、社会全体で読書の環境を整備し、積極的に推進していく動きがある。しかし、子どもが読んでいる本の内容に関する詳細な研究や、子どもの読書が発達にどのような影響を及ぼしているかに関する実証的な研究は少ない状況にある。子どもが読んでいる本の内容を定量的に捉え、読んでいる本の内容によってどのような発達への影響が見られるのかを検討することは、子どもに本をすすめる際の基礎情報となると考えられる。

本研究では、子どもが読んでいる本を対象として主に登場人物の特徴を分類し、これらの本の特徴を定量的に明らかにするための指標についての予備的検討を行うことを目的とする。

研究成果

本研究では、小学生を対象とした 2 つの調査データの分析により、以下の成果が得られた。

(1) 小学生を対象とした調査データの再分析により、読んでいる本の種類とその共感性への影響には性差があることが示された。

(2) 小学校 6 校の 6 年生を対象として 1 か月間に読んだ本の書名、登場人物への共感の有無や自分との類似性を質問紙調査により尋ねた。当初の計画では回答数が多かった本の内容を分析する予定であったが、同じ書名の本が非常に少なかったことから、少数回答の本を含めて登場人物を中心とした分類を計 3 名で行った。(1)の結果を参考に性別ごとに分類結果を集計し、読んだ本の主要人物の性別、年齢などに性差が見られること、共感したり自分に似ていると判断する主要人物の特徴には性差が見られることなどが示された。

研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等　（論文のPDFまたはコピーを添付のこと）

Suzuki, K. (2013). Gender specific-effects of reading various genres of books on empathy: A panel survey of elementary and junior high school students. The Asian Conference on Education 2013 (Osaka, Japan).

また、読書の性差や内容に関する検討の必要性などについては、以下の論文に記載した。

鈴木佳苗 (2013). 巻頭論文　子どもの読書活動の意義と課題 教育時報（岡山県）, 平成 25 年 10 月号, 4-7.